

「ハレとケ」 通信

第14号

「非日常」と「日常」の、日本の風情のかたちを楽しむ暮らしをご提案する季刊誌です。

建設に携わることの幸せを、おすそわけ。

物語のある建築 (14)

「テニスの芽、育てよう。」

—倉庫の中ではぐくまれる夢—

「ハレとケ」のある 暮らしかた

【嘉祥の儀／六月十六日は和菓子の日】

中津万象園「花の歳時記」 若葉の頃

かさねの色 (14) 「若苗」



平成 24 年 3 月発行

お客様を訪ねた際、駐車場の隅の空き地に咲いていました。春です！

設計／斎賀建築設計事務所

施工／富士建設株式会社

「テニスの芽、育てよう。」

―倉庫の中ではぐくまれる夢―

この「物語のある建築」を連載はじめたとき、「建物は、人の命を守る器であると同時に、夢を叶えるための器でもあるんだ」という想いが強くありました。

今回の物語は、「人の夢を叶える器」としての物語であると言えそうです。

夢を叶えるのは、「テニスの芽を育てたい」と思う高橋さんと、

テニスが好きで、強くなりたいと思っている子どもたち。

そして、忙しい日々の中で、テニスを楽しみたいと思っている地域の人たちです。

元々は使われなくなった自社の資材倉庫だったこの建物を、みんなの夢を叶える「器」として、このような形で提供することができたことを、私たちは誇りに思っています。



↑「テニスの芽」を育むジュニアクラスの子どもたち。



富士建設の本社の奥に、かつて資材倉庫として使われていた『倉庫』がある。一八三六㎡(約五五六坪)、鉄骨造の、かなり大きな倉庫である。

この倉庫、どうやら、他の場所から移築されたものらしい、という話を聞いた。移築？いつたい、どこから？

：尋ねてみたら、びつくりするような答えが返ってきた。「あの倉庫は、もともと、零戦の格納庫やったらしいよ。」というのは、現在の詫間中学校のあたりに海軍航空隊の補給工場があり、そこに零戦の格納庫があったとか。

戦後すいぶん経ってから、昭和37年、昭和46年ごろに何期かに分けて詫間中学校等施設の新築を弊社が請け負った際に、いらなくなった格納庫を、再利用のために弊社の倉庫として移転したのではないか、というのである。

これは、私にとつても初めて聞く話で、真偽のほどは分からない。「実は、新築する前の倉庫が、格納庫だったんだよ！」という方もいる。

「元格納庫説」は、やや眉唾な感じもあるものの、話題としておもしろい。ごく一般的な、地味な倉庫だけれど、

そんなエピソードも持っている建物。それが、今回の「物語のある建築」の舞台である。

そして今、その倉庫は、まったく違う用途として利用されている。それは「テニスコート」。

資材倉庫としての必要性がなくなった時に、弊社では、この場所に人工芝を張り、テニスコートとして整備。以来、低価格で地元の皆さまに提供してきた。

現在賃借しているのは、テニススクール、「ハイブリッジテニスアカデミー」。アカデミーで指導しているのは、高橋幸二さんである。



↑テニススクール入り口。



高橋さんは、平成21年よりこの倉庫を利用。ジュニアのテニスプレーヤーの育成に積極的に取り組んでいる。

今回の「物語のある建築」では、この場所で大切にはぐくまれている、高橋さんの夢を特集する。

出場した試合にて多数の優勝、準優勝経験を持ち、テニスのコーチとしても、全日本ジュニアナンバー1、四国ジュニアナンバー1などの名選手を数多く育てている高橋幸二さん。その実力から、「さぞや幼い頃からテニスの英才教育を…」と思い尋ねると、なんと

初めてラケットを握ったのは、21歳の時のことだという。

ももとは「格闘技」が好きだったという高橋さんの中学から高校にかけての部活は、相撲（インターハイ出場）、ボクシング（香川県トップ）、そして古武道、空手。スポーツ好きだったというだけあって、その他にも野球やサッカーの経験もあると語るが、『テニス』という言葉は出てこない。高橋さんがテニスと出会ったのは、卒業後数年が過ぎた、21歳のこととなる。

高校卒業後、兄と母がうどん屋を始めたことで、家族みんなでそれを手伝うようになった高橋さん。そのうどん屋のあった場所が、偶然、亀岡テニスクラブの前だった。

『うどん屋』という仕事は、お昼の時間帯が終われば暇になる。それを見たお客様から、「せっかく目の前にコートがあるのだし、テニスをしてみたら？」と勧められたのが、始めたきっかけだ。そして、初めてラケットを握り、テニスをしてみた高橋さんは、「お年寄りに勝てない」ことに、これまでのスポーツとは違う、新鮮な驚きを受ける。

「格闘技は、年が若い方が有利で、体力的にも勝てることが多い。でも、

テニスは、単に若さとパワーで打つだけでは勝てない。現実には70歳くらいのMさんに勝てなかったんだから。」

この、「お年寄りに勝てない」ことを「おもしろい！」と感じた高橋さんは、銀星テニスクラブへ入会。試合にも出場するようになる。

始めてからわずか2年目でコーチとなり、自分が楽しむだけでなく、子どもたちにテニスを教えるようになった高橋さん。やがて、「うどん屋を辞めてテニスの指導を仕事としたい」と思いはじめ、丸亀テニスクラブに所属するコーチとなった。

そこで4年ほど経験を積んだ後、「もっとジュニアを育てることに集中したい」という思いが強くなり、『ハイブリッドテニスアカデミー』を設立し、独立。フリーで坂出、宇多津、丸亀などでコートを借りて、ジュニアの指導を始める。

独立後3年目で、10歳、12歳、14歳、16歳、18歳部門のほとんどの入賞者を、ハイブリッドテニスアカデミー出身者が占めるまでになり、その後小学生、大学生の部では優勝、ワール

ドジュニアの代表選考には、コーチとして参加した。

独立後7年程度が経過したころ、Hテニスクラブの前オーナーと出会い、「一緒にジュニアを育ててほしい」と誘われ、その夢に共感し、Hテニスクラブへ。しかし、そのオーナーが病気で亡くなったことから、49歳の時に再び独立。自力で、「世界に通用するジュニアを育てたい」という夢を追いかけることとなった。

そんな高橋さんが、弊社の倉庫に作られたテニスコートをその夢の舞台とすることとなったのは、平成21年10月から。3年ほど前、Hテニスクラブ



の支店を作るという計画があった時に候補地として見に来ていたのが記憶にあり、借りる縁となったという。

当時、テニスコートの賃貸借の窓口となっていたのは、弊社不動産部門の営業を担当する岡戸道代。H テニスクラブから独立するという高橋さんの話を聞いて、弊社社長に、家賃について思い切った引き下げの稟議を申し出たという。

「高橋さんの、『世界に通用するジュニアのテニスプレーヤーを育てたい』という夢、そして、そういった趣旨のクラブでは、いわゆる娯楽としてのテニスを積極的に打ち出すクラブと比べて収支が合いくく、独立してクラブを作り子どもたちを育成しようにも、その立ち上げ自体が難しい…:という話を聞いて、『こういった人へ安く場所を提供することは、地元の企業として



↑不動産営業担当 岡戸道代



必要な社会貢献だ」と思ったんです。そこで、社長へ『こういう人のためには、思い切って安くお貸しすべきではないでしょうか。』と話をしに行きました。」

その岡戸の思いに社長が賛同し、平成21年10月から『ハイブリッジテニスアカデミー』として、この元・資材倉庫を舞台に、「世界に通用するジュニアを育てる」ためのテニススクールが誕生した。

では、「ジュニアを育てる」とは、いったいどういうことなのだろうか？そ

して、「テニススクール」とは、いったいどのようなものなのか？

私の個人的なイメージを言えば、大衆時代のサークルの連想からか、少々遊びの色合いの強い、楽しむためあるいは社交のためのスポーツが、「テニス」であり、テニスクラブである、というやや偏見じみた印象をもっている。実際にはどうなのかを高橋さんに聞いてみると…。

「テニスクラブというのは、『優雅に遊ぶ』ためのものと、『ハードに勝つことを追求する』ためのものと大きく二つに分けられると言っているかもしれない。

どちらかと言えば、前者は技術を教えることも遊びを重視するもので、教える人間は『インストラクター』と呼ばれることが多い。一方で、後者は技術面や、試合に出たり練習を重ねたりを重視し、指導する人間は『コーチ』と呼ばれることが多い。

一般的に、『遊び』としてのテニスは人気があるし経営的にも成り立ちやすいけれど、『世界に通用するジュニアの育成』を目指すような、選手の育成に軸足を置いたテニスクラブは経営が成り立ちにくいのが現実。」という。



↑ジュニアクラスの子どもたち。演習風景

「そもそもテニスは、昔は貴族のスポーツ。テニスコートは元は菱形で、『サーブ』という言い方も、使用人がご主人様のためにボールを打ちやすいように投げてあげることから付いた名称。でも、実際には、テニスには制限時間がないので、試合が6時間にも及ぶ…なんていうこともある。実は一番『しんどい』スポーツじゃないかな。」と言うが、高橋さんによると、日本で『テニスのプロ』が育たない理由はいくつかあるという。

「まず第一に、今の子どもたちはサッカーをしている子が多いので、テニスの世界の入り口に立つ子自体が少ない。

第二に、たとえば野球なら、四国で一番の選手になればプロになって、生活が成り立つような収入の道が開けるかもしれないけれど、テニスの場合、たとえ日本一の選手になったとしても、テニスで生活はできない。

つまり、今、日本のプロテニス選手と言えば、実業団に所属しているか、スポンサーが付いているかの二通りだと思うけれど、少なくとも賞金で食べていくことはできない。現実には日本でプロテニスプレーヤーとしての収入だけでやっていけるのは、錦織選手だけではないかな。

それに、ただ『才能がある』だけでは、テニスのプロにはなれない。『盛田正明テニス・ファンド』のような存在もあるけれど、たとえばプロになるための育成の過程では、選手一人に対して十一人も人間が付くこともある。

食事の指導をする人、トレーナー、コーチ。コーチと一口に言っても、ボレーのコーチ、ストロークのコーチ、サーブのコーチ…と複数人必要。当然、莫大な費用がかかる。

また、テニスというスポーツは、『二人以上の同レベルの相手と戦える環境』にいないければ上を目指すことはで

きない。弱い相手と戦っていてももちろん上達しないし、たとえどれほどうまく相手でも、試合でぶつかる相手のスタイルと全く違っていれば、その相手と練習していても、勝てるようにはならない。ダブルスにはダブルスの、シングルスにはシングルのコツがあるし、たとえば50歳の部門に出場する人が、若い子の速い球を捕る練習を重ねても仕方がないでしょう？だって、実際に試合で戦うのは『速い球』を武器にした若者ではないんだから。

つまり、相手の武器に合わせた練習をしなければ勝てないわけだけど、それが叶えられないときには、クラブ側はその子のためにマシンを購入するとか、一対二で練習するなど、メニューを工夫しなければならない。テニスというスポーツに関しては、勝つには勝つためのコツがあるから。」

これらの現実に対して、高橋さんが取り組んでいること。それは、「いかにテニスを『楽しく』させるか。」

「先般、『子どもを育てる』ことに対して熱い思いを共有してくれるスタッフ有一名新たに加わった。彼と取り組んでいるのは、『いかに楽しく、テニス



↑「ジュニアを育てる」想いを共有するスタッフ

をしたくなるか。」ということ。

たとえば、ボールがとれなかったことについて『何でとれないの?』という言い方をしてはダメ。『楽しいから練習をしたい』とどれだけ思わせることができるかが、大事だと思っている。また、試合に出始めると、たいいてい小学生は、『プロになりたい』と思うようになる。でも、中学・高校生になると、才能のある子でも、現実が見えてくるし、部活などで忙しくなってきたテニスから離れていく。

他のスポーツと同じようにテニスにも『推薦入学』があるし、強い、トップレベルの仲間の集まるところで練習をすれば強くなれる。そういった可能性を示してやることで、テニスに対する希望を持たせていくことも大事だと感じている。

また、テニスの『技術』は非常な早さで進歩・変化しており、教えるコー

チ側は、『どうすればいいか』を理論的に本やビデオから常に学ばなければいけない。そして、その得た知識を練習に反映させていくことが大事。上達が実感できて、試合に勝てるようになれば、『楽しく』なることは事実だから。」

そしてまた、もう一つ、高橋さんが新たに取り組んでいることがある。それは、『車椅子テニス』である。

始めたきっかけは、車椅子テニスの試合にも出ている人から、「受け入れ先がない」と相談をされたこと。

もちろん、高橋さんにしても、車椅子テニスについては全く分からない。



↑車椅子テニスの練習風景



そこで、「やったことはないけれど、それでもかまわないなら一緒にやりますよ」とことわったうえで受け入れ、教室を始めた。

「車椅子テニスの場合、『足』、つまり、フットワークのアドバイスができない。たとえば正面に来た球はどうすればいいか。どう捕るか。ダブルスの場合、普通のテニスと車椅子テニスではポジションも違う。車椅子テニスの場合は2バウンドまでオーケーなど、ルールも違う。試行錯誤しながら…ですね。」

そんな高橋さんの、これからの夢。それは、「世界的に通用するプレーヤーを育てたい」とことと、「活気ある、人が集まるクラブにしたい」ということだ。

「今借りているこの場所（富士建設の倉庫）が、元は『倉庫』だったというところは特に問題じゃないけれど、シヤッターがうるさいことと、コートがうねっていることは問題かな笑。希望としては、もっとコートの面数がほしい。そしてまた、詫間以外にも、支クラブを作りたい。詫間の知名度は、東（高松）の方の人にはかなり低い。地理関係を分かっている人ひとが多くて、先日も生島の人から、『詫間までは2〜3時間はかかるんですね?』と言われたくらい。『とんでもない!』と否定したけれど、それが現実。

また、活気ある、人が集まるクラブにするためには、たとえば、『婚活テニスクラブ』があってもいいし、実際にこれまで何度か開催し、多くの人に楽しんでもらっている。

つまり、世界的なジュニアプレーヤーを育てる夢とともに、テニスを楽しむ人が増えることを目指している。

『テニスの芽を育てたい。』
ハイブリッジテニスアカデミーのロゴ



↑ 道路側から見たところ。この倉庫の中で、テニスの芽が育っている。

に描いてあるとおりです。」
戦時中は、零戦の格納庫として使われていた建物が、移築されたのでは? という話まで飛び出した、この倉庫。様々な歴史をたどってきたこの場所が、高橋さんの夢を叶える舞台となり、そしてその夢の実現のために場所を提供することで、地域社会に貢献できる機会を得たことを誇りに思う。

ここで芽生えた『テニスの芽』が、大きく育ち、花を咲かせることを心から祈っている。

(了)



◆ ハイブリッジテニスアカデミー



[コート・設備]

- オムニ(砂入り人工芝)、インドア2面
- ロッカー、シャワールーム

[クラス]

- ジュニア: リトルキッズ/キッズ/ジュニア/プレイヤー
- 一般クラス: はじめて/初心/初級/中級/中上級/上級/トーナメント

[お問い合わせ先]

香川県三豊市詫間町詫間 302-1 TEL: 0875-83-3031 / 携帯: 090-3789-0015
meii / 8xn3uj@bma.biglobe.ne.jp ホームページ <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hibri/>



「ハレとケ」のある 遊びかた・暮らしかた

この季節を暮らす。(14)

【嘉祥の儀／六月十六日は和菓子の日】

新暦六月十六日は『和菓子の日』とされていますが、みなさん御存じですか？あまりなじみがありませんが、一九七九年に『全国和菓子協会』により制定された、歴とした記念日です。

ではなぜ六月十六日が『和菓子の日』になったのか、少し調べてみました。

◆嘉祥の儀◆

嘉祥の儀とは、平安時代から旧暦六月十六日に行われていた年中行事で、十六個の菓子を神に供え、人々の健康を祈願する行事です。

この由来については諸説ありますが、八四八年、豊後の国（大分県）から白亀が献上されたことを吉兆として、時の仁明天皇が嘉祥と改元した六月十六日、十六の数に因んで、十六種類の菓子を神前に供え、厄病よけを祈願したことが始まりとされています。

当初この行事は宮中だけで行われていましたが、室町時代頃から一般庶民にも広がっていきます。

この当時使われていた、宋の『嘉定通宝』の『嘉通』が『勝』に通じるということから、縁起が良いとされ、「嘉定通宝十六枚で菓子を買って食べると、その家に福があり、疫病を除く」と、暑氣払いや厄払いとして広く浸透していきました。

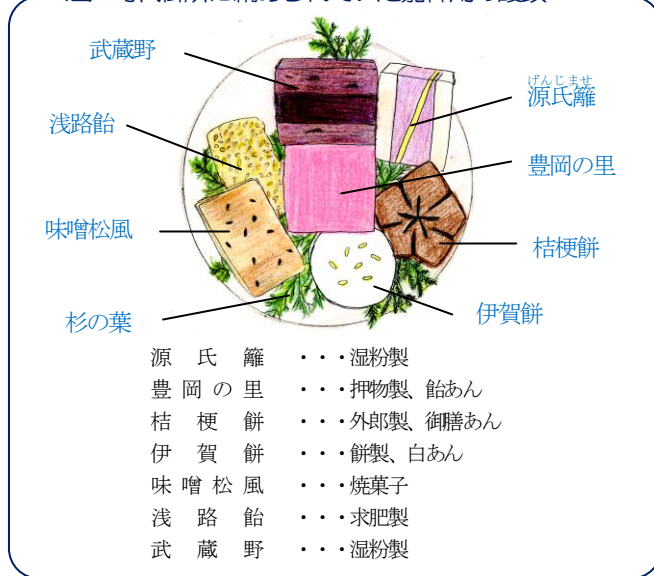
江戸時代には、将軍から諸大名や家臣へ、杉の葉を敷き詰めた片木盆（へぎぼん）に十六種類の菓子を盛ったものが与えられるようになります。

このとき将軍が用意した嘉祥菓子は、千六百十二膳（幕府御用菓子師の納入記録による）にもなったそうで、総数約二万五

千個の菓子が用意されたのです。現代のように大量生産が簡単にできなかった時代に、二万五千個もの菓子を作っていた職人さんの労力を考えると、気が遠くなるような思いがします。

しかしその後、数が多過ぎると考えた

江戸時代御所に納められていた嘉祥用の饅頭



※江戸幕府で使われていた菓子は上記とは異なります。

のか省略され、七種類の菓子で行われる『七嘉祥』へと形を変えていきます。「なぜ七種類なの？」と不思議に思われる方もいらっしゃると思いますが、十六の十を二に置き換えて六を足し、七としたようです。

明治以降、嘉祥の儀は廃れてしまいま

◆夏越しの祓◆

旧暦六月末（晦日）に行われる『夏越しの祓』にも和菓子が出てきます。

この『夏越しの祓』は、神社の境内に作られた茅の輪を、左まわり→右まわり→左まわり「と八の字に三回くぐる」ことにより、一月から六月までの半年間のケガレを落とす行事で、この日には『水無月』と呼ばれる和菓子が食べられます。

ちなみに七月から十二月までのケガレを落とす行事が年末に行われる『年越しの祓』です。

『水無月』は、水を模した白い外郎生地、悪魔払いの意味を表す小豆をのせ三角形に包丁された菓子です。三角の形は削りたての鋭い氷を表しており、暑氣を払う意味が込められているのです。

旧暦六月といえば暑い盛り。『嘉祥の儀』、『夏越しの祓』双方ともに、体力の消耗も大きく、食欲も落ちるこの時期に、厄払いやエネルギーの補給を目的として、甘くて食べやすいお菓子が食べられていたようです。

旧暦と新暦とでは気温等に違いがありますが、暑くなってくる前に体力をつける意味も込めて、ぜひおいしい和菓子を食べてみて下さい。ただし、食べ過ぎにはご注意下さい。（文・絵／土岐倫子）

「花の歳時記」 若葉の頃

万象園を訪れますと園内の植物は、四季折々の顔で私たちを温かく迎えてくれますが、それらの中でも、新しい生命の生長を謳歌する新緑の季節は格別であります。

この万象園の新緑の幽玄境として、皆さまにお勧めしたい場所があります。それは東西に長い園の中央南端付近に位置する「鶏足領」であります。この鶏足領の丘を水源とする溪流は北方に流れて八景池に注いでいますが、この溪流の水源付近の丘にはイロハモミジやモウソウチクが生い茂っています。ベンチに座して瞑想しますと、薫風に揺れるモミジやモウソウチクの葉ずれや、サラサラと流れ落ちる溪流、そして木々を飛び交う小鳥のさえずりが耳に入り、あたかも深山幽谷に身を置いたような安らぎを覚えます。

この「鶏足領」の命名の由来につきましてはつまびらかではありませんが、私はその

雰囲気から察するに、仏教の聖地とされている中インドの「鶏足山」にあやかっ命名したのではないかと思っています。

一般的にモミジと言えは、多くの人は鮮やかに紅葉する晩秋の紅葉狩りを思い浮かべると思いますが、この紅葉もさることながら、初夏の爽やかな青空の下で小さな若葉をいつせいに広げ、太陽の光をいっぱいに浴びて宝石のように光り輝く新緑のモミジも捨てがたい風情があります。

また、鶏足領の双壁としてイロハモミジと共に景観を構成しているモウソウチクも、この新緑の季節、地上のトキワツユクサを掻き分けて、筍がニョコニョコと顔を覗かせる一方、地上ではモウソウチクの新葉が伸び出ると機を同じくして、古葉が紅葉して薫風に舞う『竹の秋』のシヨウを演じてくれます。(長岡 公)



【長岡 公 氏】

昭和2年10月 香川県丸亀市津森町に生まれる。
昭和26年3月 鹿児島大学鹿児島農林専門学校農学科卒業
昭和26年4月以降 香川県公立高等学校教員として
主基高等学校・飯山高等学校・
笠田高等学校・農業経営高等学校教諭、
高松南高等学校・飯山高等学校教頭
昭和63年3月 定年退職 香川西高等学校教頭
現在 公益財団法人中津万象園保勝会 理事
※主な著書に「讃岐の名園紀行」(栗林 玉藻編/中 西謙編)がある。

古来より季節を感じさせた「色」を知る。

かさねの色(14)

「若苗」

日本人の季節を感じる心、美しいと感じる色彩感覚。

そういったものの結晶とも言える「重色目(かさねいろめ)」は、平安時代に生まれ、季節の移り変わりを表現する配色として併せ仕立ての着物などに用いられました。現代でもしつらえなどにいかして、平安の風雅を味わってみては…。



表：淡木賊／裏：淡木賊
着用時期は夏。
名称から若い苗の色を写したものと考えられ、『源氏物語』には「若苗色の小袷きたり」と見える。

【編集後記】

昨年、弊社では二組の社内恋愛夫婦が誕生しました。結婚式には社員の皆さまと出席しましたが、入社以来、身近に親しんできた子たちなので感動も大きく、エンドロールに流れる二人の笑顔を見ながら、「彼らの人生はうちにかかっているんだ！」と責任の重大さを実感しました。そして、その彼女たちがいよいよ六月と十月に、それぞれお母さんになることになりました！

二人に赤ちゃんが誕生すると聞いたとき感じたことは、「この子たちの子どものためにも、良い会社にせねば！」ということ。建設業という仕事柄、現場でお仕事する人とはあまり会わないこともありますが、私にとってこれまでの人生のどの段階よりも長く一緒にいるのが、社員の皆さまです。そして、ここにいる皆さまは、富士建設のために人生の大半の時を使ってくれています。その、彼らや彼女たちの次の世代のことを守るのが、会社の役割でもある。つまり、自分と同じ世代のためだけでなく、「次の世代」のことを想うこと。そんな想いを教えてくれた彼女たち二人に、心から感謝しています。

二人の子どもたちが大きくなった時「お母さんとお父さんと一緒に、うちの会社へ勤めたい！」と望んでくれる…。そんな会社にせねば！と、張り切っています。

*****御意見、御感想をお聞かせ下さい*****



富士建設株式会社

本社：〒769-1101
三豊市詫間町詫間 300 番地 1
TEL0875-83-2588(0120-832589)
FAX0875-83-5864
http://www.fujikensetsu.jp
mail y-manabe@fujikensetsu.jp (真鍋有紀子)

建設業許可：香川県知事許可(特23)第189号
／一級建築士事務所：香川県知事登録 第416号
／宅地建物取引業免許：香川県知事登録(10)第1997号

【発行者紹介】富士建設株式会社は、現存する五重塔55基のうち2基を建立し、「建築は文化なり」を理念に掲げて、官公庁建物・各種施設等大型建築物をはじめ、数寄屋風住宅、デザイン住宅、リフォームまで幅広く施工している。また、県下において1300区画超の宅地開発・分譲の実績を持ち、「街づくり」に対する貢献には定評がある。なお、丸亀市指定名勝である「中津万象園」の修復維持保全活動も行っている。

■営業所：高松営業所・丸亀本店・観音寺営業所

■中津万象園・丸亀美術館／丸亀プラザホテル／味処 懐風亭